

## 研修医の手記

各務 雅基



## 釧路・道東での研修生活

みなさんこんにちは。市立釧路総合病院、臨床研修医の各務と申します。先日専攻する科も決め、2年間にわたる研修生活ももうすぐ終わりを迎えようとしています。

研修医として最低限学ぶべきことを果たして身につけられているかと自問自答する日々です。

秋ごろに厚岸町立病院で1か月間、研修のお世話になりました。週末には釧路に戻って過ごしていましたが、その往復にJRを利用していました。窓からの風景はもちろん通学に利用する学生の賑やかさなど、地方のローカル線ならではの景色を楽しむことができましたが、それとは別に線路付近に出現する鹿の多さも印象的でした。とある日曜日に厚岸に帰る電車が急ブレーキをかけたと思ったら数秒後に前方でドンッという衝突音がし、ボキボキゴリゴリという鈍い音が座っていた自分の臀部に響きながら後

方へ駆け抜けていったのは一生忘れることはないでしょう。

さて、本題に戻りますが厚岸での研修で印象に残ったものの一つに他院への転院搬送依頼がありました。自院で診きれない患者さんを助けるために他を頼る場面を市立病院ではいままで見る機会がなく、病院間での連携の重要性とその背景を目の前で実感でき貴重な経験となりました。また市立病院に戻っても他科他院への紹介のお返事、コンサルテーション、情報提供依頼書の作成を任せられることが増え、直接は関係ないが患者さんに治療する上でそういった連携をスムーズに行うことの重要性を改めて感じています。

今までは目の前の治療に専念する勉強が主でしたが、その治療を最大限にするためにもっと広い視野で多くのことを学んでいきたいと思っています。残り短い期間ですが今後もどうぞよろしくお願いいたします。

## エキスパート紹介 Part.17



皆さんこんにちは。緩和ケア認定看護師の山田です。認定看護師の資格を取得してから、あっという間に1年が経過しました。

緩和ケアとは、がんやその治療によって生じる体の症状や気持ちのつらさを和らげ、その人らしく生きることを支援する医療です。対象はがんだけではなく、腎不全や心不全などの非がん患者さんも含みます。患者さんの抱える症状が少しでも軽くなり、今まであった当たり前の日常生活を送ることができるように、また、治療の方法や今後の生活スタイルを決定する時にも患者さん・ご家族の意向に沿えるようにサポート出来たらと思い緩和ケア認定看護師の資格を取得しました。

私は主に腎がんや膀胱がん・腎不全などの腎・泌尿器疾患のある患者さんと関わっています。症状は主観的なものととらえ、患者さんの言葉や表情、行動などを大切にしています。私が主に行っているのは、患者さんやご家族のもとに伺い椅子に座りゆっくりと話を伺う事です。また、伺った話しをもとにどうしたらつらい症状や気持ちのつらさが和らぐのか病棟のスタッフと相談し、ケアを行っています。

緩和ケアは看護師だけではできません。医師や薬剤師、リハビリスタッフ、MSW等多くの方の力が必要です。スタッフ一人一人が持つ患者さん・ご家族の情報を繋ぎ合わせ、その人らしく生きることができるよう、これからも病棟スタッフやコメディカルと協力しケアを行っていききたいと思います。

緩和ケア認定看護師 山田 美穂



## 市立釧路総合病院

発行責任 広報委員会

〒085-0822 釧路市春湖台1番12号  
TEL(0154)41-6121・FAX(0154)41-6511

## 連携ニュース 春湖台

第24号：平成31年1月4日発行

## ごあいさつ



市立釧路総合病院 院長

高平 真

「平成」最後の連携ニュース「春湖台」となりますが、皆様にはあらためて日頃の医療連携に対するご協力に心より感謝申し上げます。

さて、地域医療構想のもと機能分化・連携を加速し地域包括ケアシステムを構築していくことが求められております。その中で当院は高度急性期病院として在院日数の短縮が宿命となっております。入院期間が短くなることで患者さんには、入院が決まってから手術・治療内容や薬、医療費、退院後のリハビリなど沢山の説明と理解に大きな不安があります。このたび、患者支援センターを院内に設け、入院前の諸手続きや中止薬の説明、退院後に要する医療・介護サービスなどを多職種がワンストップで支援する体制を始めました。開設間もないので至らぬ点があるかと思いますが、成否の鍵は円滑な病・病、病・診、介護連携と捉えております。

大きな時代の変化の中で釧路地域の33万人の住民の皆様が安心して生活をおくれるように地域の医療機関、介護施設や住民の皆様、行政とも今まで以上に連携を深め、日々の研鑽を怠らず、高度医療提供体制の継続と進化に努力してまいりたいと思います。

重ねまして、関係各機関のご理解とご協力をお願いいたします。

## 理念「信頼と満足の創造」

## 経営方針

- 十分な説明のもとに患者の意思を尊重し、患者中心の医療を行います。
- 地域完結医療を目指し、高度医療・救急医療を充実します。
- 地域医療を支援するため、病診連携を密にします。
- 心温かな質の高い医療サービスを実践するため、日々研鑽します。
- 良識と協調性のある医療人として、意欲と誇りの持てる職場環境づくりに努めます。

## 大規模停電時の対応 - その経験を活かして -

昨年9月6日未明に発生した「北海道胆振東部地震」、被災された方々には心からお見舞い申し上げるとともに、被災地域の日も早い復旧をお祈り申し上げます。釧路市においては、地震による直接の被害はほとんどなかったものの、その後発生した、道内全域におよぶ停電（ブラックアウト）によって、当院もその影響を受けました。自家発電による運営を余儀なくされたことから、外来の縮小、定期手術の取り止めなど、様々な影響はあったものの、救急患者の受入れや、停電により運営できない他病院からの透析患者の受入れ、要請によるDMAT隊の被災地への派遣など、災害拠点病院として、一定の機能は果たせたものと考えています。しかしながら、災害時の対応において見直すべき点が見られたことから、翌10月には院内各部署の関係者を一同に集め、停電対応についての反省会を行いました。反省会においては、職種・役職を問わず、各部署から様々な意見が寄せられ、また、課題も多く見えたところであり、施設や設備面については、すぐには改善できないものもありましたが、今後の対応や対策を決めるためには、それらの情報は非常に有意義なものであったと感じました。釧路市を含む道東沿岸部においては、大地震の発生確率が非常に高い数値で示されており、甚大な被害が予測されていることから、災害拠点病院としての当院の役割は、その地域にとって非常に大きなものであると理解しています。この経験を忘れることなく、地域の各病院とも連携を密にし、災害時においてもその医療体制を維持できるよう、一層の努力を行っていく所存です。

### 災害時に備えて ~栄養科の取り組み~

先日北海道胆振東部地震が発生し、当院でも停電により自家発電での電力確保をせざるを得ない状況となりました。道東地方も地震が多いため、災害時の備えはとても大切です。そこで、栄養科がどのような備えをしているのかご紹介したいと思います。

今年度は、災害時に備えた栄養科用のマニュアルの中で備蓄食品や災害用献立、アクションカードなどの内容確認、見直しを行いました。

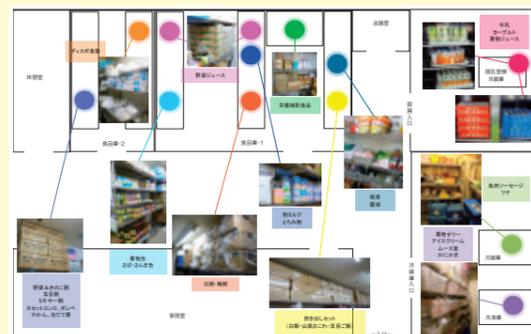
備蓄食品は入院患者さん用に3日間分あります。さまざまな種類があり、災害時には多くの職員が関わることを予想されるため、誰が見てもわかるよう備蓄食品保管場所のマップを作成しました。備蓄食品と併せて、災害

用の献立の見直しも行い、各配膳室に掲示しています。

アクションカードを用いた机上でのシミュレーションでは、それぞれがどのようにすべきか具体的な動きを確認していく中で、新たに見つかった課題もあるため、情報共有をしながら整理を進めています。

その他、小児科・産科用に使用している哺乳瓶が瓶タイプであったため、ディスプレイタイプの哺乳瓶を準備するなど、病棟と打ち合わせを行いながら進めているものもあります。

これからもさまざまな場面を想定しながら、多職種と連携して安心して安全な食事提供ができるよう進めていきたいと思っています。



備蓄食品保管場所マップ



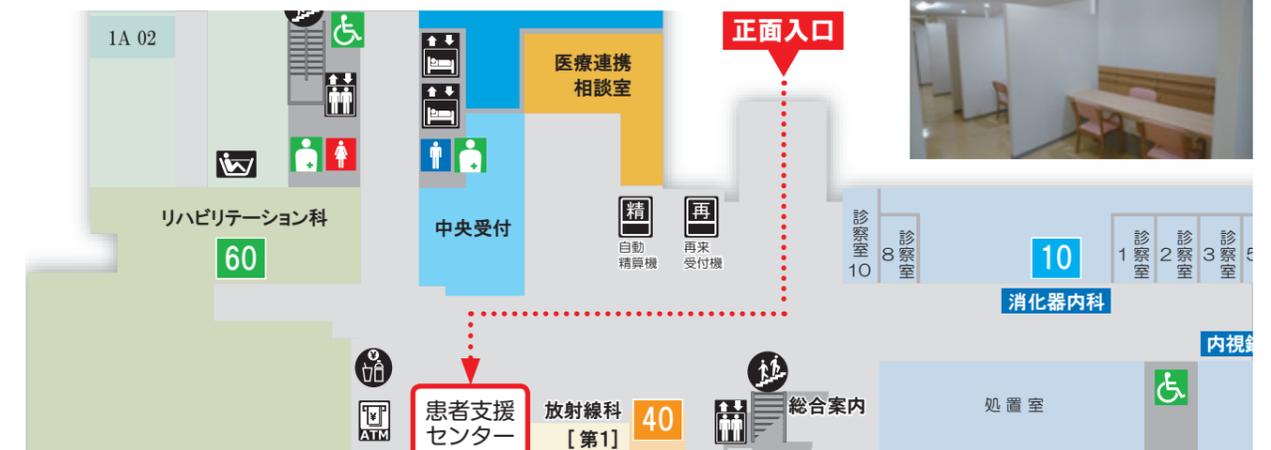
備蓄食品の一部

## 患者支援センターを開設しました

2018年12月10日（月）より、当院に入院される患者さんやそのご家族の皆さんに対し、今後の入院生活においての様々な説明を行う『患者支援センター』を1階の放射線科受付前の並びに開設いたしました。現在は、一部の診療科に限った運用となっておりますが、順次、対象診療科を拡大しながら、全科での運用を目指しています。

また、将来的には、この患者支援センターが医療連携相談室とともに前方・後方支援や医療相談等、患者さんやそのご家族の皆さんのニーズに合わせてサポートを行う『(仮称)患者総合支援センター』を設置する予定です。

今後も、当院の経営方針である『十分な説明のもとに患者の意思を尊重し、患者中心の医療を行います。』に基づき、患者さんの気持ちに寄り添いながら、不安無く入院生活が送られるよう丁寧な説明を行い、引き続き、患者さんの目線に立った切れ目の無い患者サービスの向上に取り組んで参ります。



### ~病棟フットケア活動を行なっています~



当院では、肥厚爪や巻爪などでセルフケアが難しい入院患者様の爪のケアを行っています。

フットケア研修を受講した看護師が、週一回、水曜日の午後に依頼のあった病棟に伺い、足浴や爪切り、角質除去などのケアを行っています。爪や足の観察や適切なケアをすることで、痛みや皮膚の損傷を防ぐことができます。患者様に満足感や爽快感を提供し、健康へのサポートができるよう今後も引き続き活動していきたいと考えています。



<ケア前>



<ケア後>

※病棟活動の他に、当院に糖尿病で通院治療されている方を対象に、フットケア外来を行なっています。詳しくはかかりつけの科の医師または看護師にお尋ねください。

フットケア担当 中村・後藤